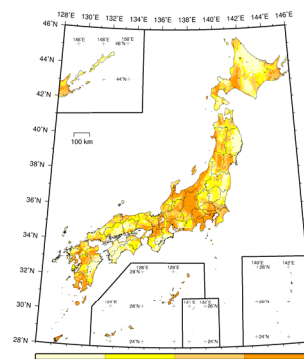
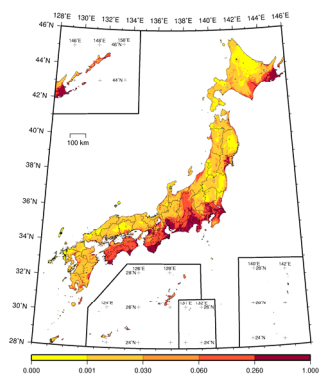
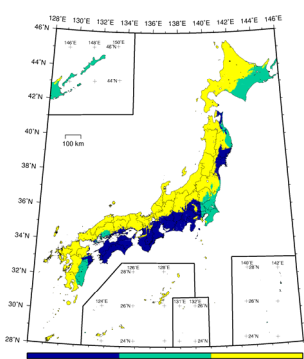
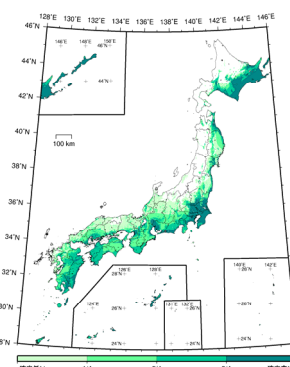
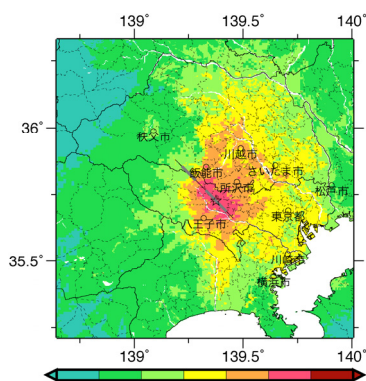
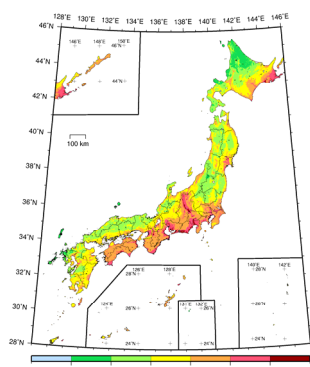
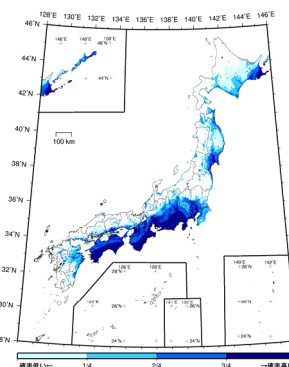
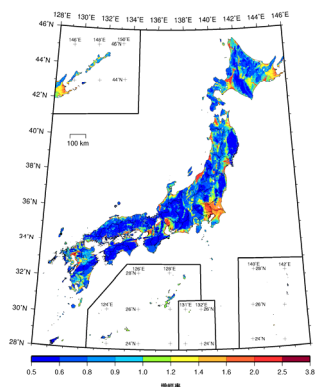


全国地震動予測地図

— 地図を見て 私の街の 揺れを知る —

技術報告書 (2009)



2009年12月

地震調査研究推進本部地震調査委員会

「全国地震動予測地図」技術報告書の作成にあたって

地震による揺れの危険度を正しく認識し、防災意識や防災対策の向上に結びつけることを目的として、地震調査研究推進本部地震調査委員会により「全国を概観する地震動予測地図」が作成され、2005年に公表されました。この地震動予測地図をさらに高度化するための検討の場として、2006年2月に地震調査委員会の長期評価部会ならびに強震動評価部会の下に地震動予測地図高度化ワーキンググループが設置されました。本ワーキンググループ等での検討に基づいて地震動予測地図の高度化が図られ、2009年7月に「全国地震動予測地図」として公表されました。

本技術報告書は、「全国地震動予測地図」作成の際に採用された手法やデータについて詳細に記載したものです。採用された強震動の予測手法やデータは現時点で最新のものであり、従来のものに比べて予測結果の信頼性は向上し、情報量も増えました。例えば、約1kmメッシュだったものが約250mメッシュの情報に細密化されたり、震度6強以上とまとめて表示されていたものが震度7の地域も表示されるようになったり、全国各地の100を越える活断層による地震の震度分布が示されるようになったり、どんな地震によって強い揺れが生ずる恐れが高いのかを知るために地震カテゴリー別に強い揺れが発生する確率が示されたりするようになりました。

ただし、「全国地震動予測地図」に示されている予測結果は予想される強震動の平均像です。厳密に言えば、平均像からある幅を持ったものが実際に起こるであろうということにも留意する必要があります。この幅は用いた手法やデータなど計算条件に依存します。本報告書により、計算過程やデータを理解し、それぞれの予測結果の持つ意味や精度を把握していただくことで、予測結果がさらに高度な形で適切に利用されることにつながれば幸いです。

平成21年12月

地震調査研究推進本部 地震調査委員会
長期評価部会・強震動評価部会
地震動予測地図高度化ワーキンググループ
主査 翠川 三郎